



横浜市立相沢小学校

1月号 R3.1.12

学校だより



学校 HP QR コード

希望に満ちた年に

校長 海老澤 孝代

明けましておめでとうございます。保護者、地域の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。新型コロナウイルスの感染急拡大に伴い、緊急事態宣言が再発令されました。学校は新しい生活様式を実践し、感染防止の取組を引き続き行ってまいります。行事等の内容を検討しなくてはならないことが出てくるかもしれません。その場合は、変更等分かり次第お知らせいたします。ご理解の程お願いいたします。この辛い状況を何とか乗り越え、新たな希望に満ちた年になるよう願わずにはられません。



12月に行われた「瀬谷区健やか子育て講演会」で幼児期について研究されている玉川大学教授の大豆生田啓友先生のお話を聞く機会がありました。幼児期には夢中になって思い切り遊ぶことが重要で、満たされた遊びには共感が生まれ広がっていく。それが協働的な遊びとなり一つのブームが生まれていく。その過程で学びに向かう力や語彙力が高まり、人としてより良く成長していくことにつながると話されていました。数値では図ることができない非認知能力の自尊心や意欲、自己肯定感などが高まっていくということでした。

私は「あいざわっ子発表会」もまさにブームであると思いました。自分の課題を見つけ、考えては調べ追究していく。そして伝えるために分かりやすくまとめ発表する。一人の課題がどんどん広がり、共感が高まっていく様子を見ることができました。自ら行動していくことで次々と学びが広がっていくワクワク感や友達と協働して解決していく喜びを子どもたちは感じる事ができた、と思っています。今年度は多くの学年で地域や関係機関の方々にインタビュー・取材等にご協力をいただきました。皆様のご協力がなければこのように子どもたちの学習が広がり深まり、達成感をもった取組にはならなかったと思っています。6年生にあいざわっ子発表会後にアンケートを取ったところ、「友達と協力したり励まし合ったりしながら活動することができる」「人は一人ではなく、いろいろな人や物の恩恵を受けて生きていることが理解できる」という項目が特に「よくできる」と答えていました。私は、この経験から子どもたちの中に非認知能力が高まったと言えるのではないかと思います。

大豆生田先生は、今あるがままを大切にする。ありのまま、自分らしくあること。今与えられている現在を感謝し充実していけば、未来は開け結果的によい未来が生まれ、幸せが訪れるとも話されていました。丑年の令和3年が良い年になるように一人一人がこの状況を受け入れ、考えて行動していくことで、希望という光が見えてくるのではないかと思います。本年もご支援ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



学びあい 認めあい 支えあい
夢をはぐくむ あいざわっ子